

いちかわ TMO講座 9期課題総括表

No	課題分類	修了課題	概要
1	育成	いちかわ未来郵便 学生・生徒のキャリア発達を サポートする	産業構造の変化と同時に大学への全入化 学生を取り巻く状況が変化し、社会人・職業人へ経験発達が未熟。そこで小学校卒業を契機に中学・高校(年齢12,15,18)で3年後の自分に手紙を出し、3年後受け取ることで 自己を振り返って理解させる機とする。(料金とり局を設置 対象の10%目指す)
2	医療	いちかわリハビリ行脚 ～こたえる・つたえる・つながる～	リハビリ専門職は基本的に病院・施設の中で働き、一般市民の方には馴染がない。そこで、私は地域でのリハビリ専門職の活用を検討を考えている。そのためには施設を出てリハビリ行脚。地域の方の多種多様なニーズを聞き、こたえ、専門職として相手を評価し、乗り越える術をつたえ、地域と地域をつなげて、市全体の健康予防に役立てる
3	福祉・介護	日常と非日常を結ぶ	一旦介護保険を受け”デイサービス”でも利用すると介護保険の日常から卒業出来ない。それを克服して非日常の自立へ導くため、他事業所へ働きかけ、徐々に理解の環を広げ、介護者には他事業所の介護者と共通の切り口(例えば趣味)でつなげ、地域住民にも同様にコアを作ってつなげ、介護保険からの自立を支援する。
4	起業支援	《収益の上がる ソーシャル活動支援隊》 の構想	いちかわ市内350からのNPO法人が子供の育成・環境保全・文化振興等等様々な活動をしている。自ら資格のあるプロジェクトマネージャーの知見で、これらを儲かるソーシャル活動になるべく支援したい。デザイン思考の調査・分析・統合・実現に至る7つのモードで分析し、必要に応じてはNPO経験も視野に、ビジネス化する。
5	地域活性化	「ぼっけのおとの会」立ち上げ	現在住んでいる北方町4丁目にスポットを当て、大柏川第一調整池に隣接したビジターセンターを活用し Walking 五感に感じたこと地図に落とし込み Talking 限定地域の文化人 当面自治会長からの地域紹介等 話題提供 それを元に地域交流新たな発見で地域活性化と連帯感の醸成
6	地域活性化	市川 行き活きステーションづくり	市川は成長まだ続ける街 そこに活気にあふれる”場”が出来て、人が集まるステーションづくりをする。その’きっかけ’は健康・スポーツ・趣味等 それを自分として’モチベート’とし、’習慣化’するスキムを見つけて具体化する。 場の候補に公共施設/商業施設・空き店舗 課題として中年/リタイア男性のとりこみとボランティアを超えてビジネスにつなげる。

いちかわ TMO講座 9期課題総括表

No	課題分類	修了課題	概要
7	起業支援	～すべての人に自己実現を～ 起業家の応援団を目指す	日本は起業・廃業の率5%前後で国際的に低く、一方長寿の企業が多い。即ち起業の意味で活性化されていない。潜在的起業準備者及び起業希望者に焦点をあて今までの起業準備者を起業家に育てた実績を活かし、起業家に育つ層の充実を市川に根付かせて起業による活性化をする。 そのため本来の自己実現のための起業する人々の支援をする。
8	育成	第三の「学び」の場	人の受ける教育は”学校と親”で基本的に受け身である。社会にでるとそれで通じない。そこで 両親・教師・社会が一体となり同時並行の第三の「学び」の場をつくる。そこで何を学びたいか 発信する力をつけ 多様なあり方を知り、視野を広める(参加する大人も学ぶ)。 この実現のため、まず’場’をみつけ’仲間’を集め’資源’の準備。
9	育成	共に生き 未来に繋げる地域づくり	これまでの子供の小中含む7年のPTA会長 市のPTA連絡協議会事務局長5年及び中学PTAOB会立上げ 学校支援 子育て支援の活動通じ 垣根を超えた”縦(世代)+横(地域)”の繋がりこそ 共に生き未来に繋がる 様々な課題の解決に繋がると考える。そのため地域NPOとの協働も鑑み より楽しい より暖かい人のある地域をつくっていく。
10	文化振興	『紅茶をぐいっしょに』 紅茶でつながる人と人	紅茶は飲んでおいしさと同時に精神面含めて穏やかさを与え、体にも美肌含めて良い効果を与える。その魅力に惹かれ、英国に「ホームステイ」等の体験を経てまだまだ普及していない市川に その良さを広めたい。そのため”お茶会の開催” ”ティールーム運営” ”お茶と何か(地域活動)のコラボ”を進めていく
11	歴史	「市川市が誇る歴史と 小さな取り組み」	市川市の歴史は古く 多くの歴史的文化資産も現存している。これらを市民の多くが知り、誇りを持って欲しい。すでに歴史散歩の会(プラタナリ)を主宰しており 昨年秋国府台で実施し この3月行徳で実施予定。この会は続けるが更に裾野広めるべく まずは子供の参加で地域資源の発見・発信 これを様々な地区に広め点から線そして面への拡大をはかる。
12	地域活性化	『いちかわ大学』 まずは行徳キャンパス 新しい市民参加のコミュニティー	IT企業に勤務 武蔵小杉より行徳に移住 武蔵小杉には『こすぎの大学』という新旧住民の交流の場があり、防災から子育て 様々な分野で地域の専門家を主体にワークショップや 時にお祭り 等々にぎやかで楽しい交流の場を、移り住んだ市川でこの経験を参考に新たな子供の未来にも繋がる世界を『いちかわ大学』でやろう。

いちかわ TMO講座 9期課題総括表

No	課題分類	修了課題	概要
13	地域活性化	ICHIKAWA AKIYA PROJECT クロスしてサイクルしてアップする	文系ながらたたき上げ建築住宅業界26年の経験で、市川でゴールドスペースのJR市川駅から京成国府台から菅野駅と真間川にはさまれる地域は比較的高齢化で今後空き家がそれをみんなが楽しい”食”の力と 様々な人の知恵や経験が育児含めて交わされる”育”の力で 人が集まり、還り、交差する”住”の場にクロスしてアップサイクルする空家活用をビジネスに育てる。
14	地域活性化	商業施設を活用した 市民交流の活性化	商業施設(SC:ショッピングセンター)と 市民・行政 3者繋ぎ、3方良しのコーディネーターをめざす。少子高齢化 SCも従来の方法では集客は伸び悩む。一方市川には多くボランティアあるが広げる場がない。市(行政)も多くの取組テーマを広めたい その3者をつなげて総合的にコーディネーター。すでにニッケコルトンの承諾もあり、複数の企画の案もあるの出来るところから始める。
15	演劇	演劇稽古で成長しよう IN いちかわ	大学の演劇部に所属 TMO活動で文化が市民に知られてない。それをなんとかできないか。演劇は稽古通じて、人前で強く、表現力高め、本番で力を出すコミュニケーション能力が高まり、自己を理解する。そこで演劇(市川で作られた)を利用し文化の普及をしたい。それは大人から子供まで参加のもので その為役者経験も考慮し、稽古場を持つ。